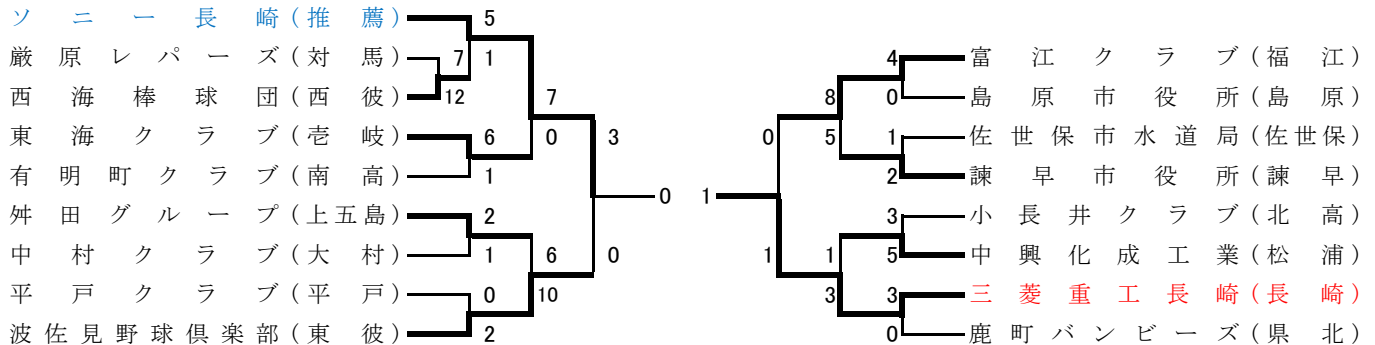


12年ぶり10度目優勝の三菱重工は決勝でソニーに1-0

第46回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成8年10月18日(金)～10月20日(日)
会場：長崎市宮神ノ島仮設野球場、三菱球場



第46回県軟式野球選手権大会の第1日は神ノ島仮設野球場で二回戦5試合と、三菱球場で二回戦4試合の計9試合を行い連覇をめざすソニー長崎のほか、三菱重工長崎、富江クラブなどの強豪が順当にベスト8に名乗りを挙げた。諫早市役所-佐

世保市水道局は延長にもつれる熱戦。八回裏に諫早市役所の馬場が押し出しの四球を選び2-1でサヨナラ勝ち。地区予戦で優勝候補の親和銀行を破ってきた佐世保市水道局は初戦敗退した。(平成8年10月19日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【厳原】打安点

⑥一宮	4	0	0
④志賀	2	0	0
⑨舍利	2	0	0
⑮川崎	3	3	2
③内山	1	0	0
⑦平間	3	1	2
②松尾	3	1	1
⑤須田	1	1	0
51豊川	1	0	0
⑧神宮	3	1	1
	23	7	6

西海棒球団が快勝

【一回戦】(神ノ島：第1試合) 振球犠盗失残併 1時間30分

厳原レパーズ	106 00	5	4	4	1	3	4	1	0	(5回時間切れ)
西海棒球団	502 50	12	2	3	2	4	2	6	0	

【本】太田勇 【三】波頭 【二】川崎、平間、川本
【評】両チーム先発投手の乱調から点の取り合いとなったが、西海棒球団が四回に主砲・太田の左翼フェンス越え3点ホームランなどで5点を挙げ、五回時間切れの特別規則で勝利を握った。両チームとも県選手権は初出場だったが、厳原レパーズは守備の乱れが響いた。

【西海】打安点

⑧吉牟田	2	1	0
H山崎	1	0	0
⑤藤本	3	3	1
⑦船木	1	0	0
7小島	1	1	0
③太田	3	1	3
②波頭	2	2	2
⑮川本	2	1	4
④6辻山	2	0	1
⑨辻尾	2	1	1
H山中	1	0	0
⑥1太田昭	3	0	0
	23	10	12

【東海】打安点

⑧高谷	4	2	0
⑥橋口	2	0	0
②石橋	1	0	0
④塩津	2	2	1
③中山	3	1	0
⑤竹尾	2	0	1
①樋口	2	1	3
⑦松下	3	0	0
⑨山川	1	0	0
H9石橋重	1	0	0
	21	6	5

東海クラブが圧勝

【二回戦】(神ノ島：第2試合) 振球犠盗失残併 1時間34分

東海クラブ	100 140	6	7	6	2	2	1	5	0	(6回時間切れ)
有明町クラブ	000 100	1	5	1	2	0	2	3	1	

【二】樋口、高谷
【評】安打数にあまり差はなかったが、集中打と四球の差で東海クラブが圧勝した。初回到塩屋の左前タイムリーで1点を先取、五回は二死から押し出しや樋口の二塁打などで4点を加えた東海に対し、有明町クラブは四回に久米次の中犠飛の1点を返したのみだった。今大会参加17チームの中で、三菱重工の22回出場に次いで19回目の有明町クは昭和62年(第37回大会)以来、9年ぶりの南高代表だった。

ソニー長崎、連覇へ好発進 西海棒球団を下す

【ソニー】打安点

⑤川下	3	0	1
④川田	3	2	0
⑧1増本	4	1	1
③天野	3	1	1
⑦種村	1	0	0
②戸嶋	2	1	0
⑥水本	2	0	0
①阿部	2	0	0
9西川	1	0	0
⑧吉崎	1	0	0
#道上	0	0	0
	22	5	3

【二回戦】(神ノ島：第3試合) 振球犠盗失残併 1時間37分

ソニー長崎	022 001	5	3	5	3	8	1	7	0	(6回時間切れ)
西海棒球団	001 000	1	9	0	1	1	4	6	0	

【三】川田、波頭 【二】増本、川田
【評】ソニー長崎が二回、四球で出塁すると足でかき回しノーヒットで2点、三回には川田以下が3連続長短打で2点を奪ったあたり、さすがと思わせたが、あとの攻めはいまひとつ。投手の阿部も二回までは5連続三振を奪う上々の滑り出しだったが、スピード不足。変化球を生かせず前年度優勝チームとしては不満の残る試合ぶりだった。

【西海】打安点

⑧吉牟田	2	1	1
⑤藤本	3	0	0
②波頭	3	1	0
③太田	3	0	0
①川本	3	0	0
④辻山	3	2	0
⑦船木	1	0	0
7小島	2	0	0
⑨辻尾	2	2	0
⑥太田昭	2	0	0
	24	6	1

【中村】打安点
 ④奥田 3 2 0
 ⑥今畑 3 1 0
 ③大園 3 0 0
 ①岩崎 2 0 1
 ②井中 3 0 0
 ⑦里里 3 0 0
 ⑤8川波 3 0 0
 ⑧広瀬 2 0 0
 ⑤名原 1 0 0
 ⑨朝長 2 1 0
 25 4 1

舛田が勝つ

【二回戦】(神ノ島：第4試合) 振球犠盗失残併 1時間26分

中村クラブ	100 000 0	1	6	0	1	2	1	5	0
舛田グループ	100 010 X	2	4	3	0	1	2	2	0

【評】中村クラブはミスに泣いた。1-1で迎えた五回裏の舛田グループは蔭山が中前打。これを後に逸らしフェンス際まで転がる間に本塁を陥れて、これが決勝点となった。

舛田の蔭山投手は立ち上がり奥田に二塁打を喫し、岩崎恵の中犠飛で先取点を許したが、その後は被安打3、無四球の好投だった。

中村クは昭和44年(第19回大会)が初出場で2年連続7回目出場だが、挙げた白星は4回目出場した時の55年に吉井クからの1個のみ。

【舛田】打安点
 ⑧和田 3 0 0
 ⑥浜崎 1 0 0
 ④立石拓 3 0 0
 ⑤立石宏 3 1 1
 ③井内 2 1 0
 ⑨舛田 2 0 0
 ①蔭山 2 1 0
 ②青崎 2 0 0
 ⑦坪井 1 0 0
 19 3 1

波佐見が完封

【二回戦】(神ノ島：第5試合) 振球犠盗失残併 1時間28分

平戸クラブ	000 000 0	0	4	2	2	2	0	4	0
波佐見野球倶楽部	000 002 X	2	2	1	1	1	1	4	0

【評】選手権出場18回目の平戸クラブ・佐々木、初出場の波佐見野球倶楽部・馬場両投手の投げ合いで無得点のまま迎えた、六回の波佐見は一死後に福田勝が右中間三塁打、松本が遊ゴロに倒れチャンスは逸したかに見えたが、馬場が遊撃手を強襲し、さらに山下も右中間三塁打して、この回2点を挙げて投手戦にケリをつけて、初出場初勝利を挙げた。平戸クラブは18回出場のうち初戦敗退は13度目(棄権1含む)。

【平戸】打安点
 ⑥高本 2 0 0
 ④山下 3 0 0
 ③古川 3 1 0
 ②松本 3 0 0
 ①佐々木 2 1 0
 ⑤阿部 3 0 0
 ⑦脇川 2 0 0
 H田尻 1 0 0
 ⑨森田 1 0 0
 ⑧井手口淳 1 0 0
 21 2 0

【波佐見】打安点
 ⑥吉村 3 0 0
 ④福田勝 2 1 0
 ⑧松本 3 0 0
 ①馬場 3 1 1
 ⑤山下 3 1 1
 ⑨岩永 3 0 0
 ③白杵 2 2 0
 ②福田雅 1 0 0
 ⑦今井 2 0 0
 22 5 2

富江クラブが主導権 島原市役所に守備の乱れ

【二回戦】(三菱：第1試合) 振球犠盗失残併 1時間33分

富江クラブ	120 001 0	4	1	1	0	2	1	5	1
島原市役所	000 000 0	0	5	2	1	0	6	9	1

【評】富江クラブは初回二死三塁から川末の右前適時打で先制。二回も稲田のソロ弾と松崎の右前適時打で2点を追加して試合の主導権を握った。

島原市役所は四、六、七回と得点圏に走者を進めたが後続が凡退。6失策を記録した守備の乱れが、そのまま得点差につながった。

【富江】打安点
 ⑧石山博 4 1 0
 ④福山 3 0 0
 ⑦石山雄 4 1 0
 ②三川末 3 2 1
 ⑨1稲田 3 2 1
 ⑥川口 3 0 0
 ③尾崎 2 0 0
 H3松田 1 0 0
 ⑤樽角 3 1 0
 ①9松崎 3 1 1
 29 8 3

【島原】打安点
 ①柴田 3 1 0
 ②小林 2 0 0
 ⑤吉田信 4 2 0
 ④北谷 3 2 0
 ⑧吉田修 3 1 0
 ⑨徳永 3 1 0
 ③成瀬 3 0 0
 ④本多 3 0 0
 ⑦島田 3 1 0
 27 8 0

諫早市役所サヨナラ 佐世保市水道局は敗退

【二回戦】(三菱：第2試合) 振球犠盗失残併 1時間32分

佐世保市水道局	000 000 01	1	5	2	0	2	3	9	0
諫早市役所	000 000 02x	2	4	3	0	5	1	8	0

【評】諫早・前田、佐世保・笹山の両エースの好投により0-0のまま八回から無死満塁制の延長戦に突入。先攻の佐世保は山下の四球押し出しによる1点にとどまったが、諫早は敵失でまず同点に追いつくと、最後は馬場が押し出しの四球を選んで2-1のサヨナラ勝ちをした。

諫早市役所は軟式大会が復活した昭和41年(第16回大会)以来30年ぶり2度目の出場で2勝目。佐世保市水道局の初出場は62年(第37回大会)で親和銀行が3連覇中のとき。今回は地区予選で親銀を倒して2度目の選手権だった。

【佐世保】打安点
 ④松本 4 2 0
 ⑧山下 2 0 1
 ②藤村 4 0 0
 ①笹山 4 0 0
 ③大谷 3 0 0
 ⑨杉野 3 1 0
 ⑤吉居 3 0 0
 ⑦北村 3 1 0
 ⑥前川 3 0 0
 29 4 1

【諫早】打安点
 ④大谷宏 3 0 0
 ⑥馬場 3 0 1
 ③大谷幸 2 0 0
 ⑧木下 3 0 0
 ①前田 3 0 0
 ⑨深川 3 0 0
 ⑤石田 3 1 0
 R執行 0 0 0
 ②梅林 3 1 0
 ⑦加島 3 0 0
 26 2 1

親和銀行は昭和53年(第28回大会)に長野国体参加のため県選手権を不参加したが、その2年前(51年)から選手権に連続出場をしていた。前年準決勝でソニー長崎に敗戦したことで今季は地区予選からの出場だったが市水道局に敗戦。

三菱重工長崎が先制 鹿町は7安打も実らず

【二回戦】(三菱：第4試合) 振球犠盗失残併 1時間28分

三菱重工長崎	300 000 0	3	3	2	4	3	0	2	0
鹿町バンビーズ	000 000 0	0	5	1	0	0	0	8	0

【評】三菱重工が鹿町バンビーズ・浜田の立ち上がりを攻略。一回一死二三塁から江添の左前適時打で2点。さらに敵失と三盗で一死三塁になったところで、山崎がスクイズを決めて計3点を奪った。

2年ぶり3回目出場の鹿町バンビーズは、23回目出場の三菱重工を上回る7安打を放ったが、要所を抑えられて無得点に終わり初の初戦敗退。

【三菱】打安点
 ⑥宮本 3 0 0
 ⑨榊田 2 1 0
 H9松永 2 0 0
 ⑧榊本 2 0 0
 ⑦江添 3 1 2
 ③山崎 1 1 1
 3向井 1 1 0
 ④本多 1 0 0
 H西村 0 0 0
 4江越 0 0 0
 ②江布 1 0 0
 2鈴木 1 0 0
 ⑤碓 2 0 0
 ①小森 1 0 0
 1池野 1 0 0
 1牧瀬 0 0 0
 20 4 3

【鹿町】打安点
 ⑧松田 4 1 0
 ④荒木 4 2 0
 ③川尻庄 2 0 0
 ⑤小村 3 1 0
 ⑨前田 3 1 0
 ②川尻武 3 2 0
 ⑦吉浦英 2 0 0
 H7吉浦竜 1 0 0
 ①浜田 3 0 0
 ⑥川尻秀 2 0 0
 H川久保 1 0 0
 28 7 0

中興化成が集中打 小長井クの追撃届かず

【二回戦】(三菱：第3試合) 振球犠盗失残併 1時間36分

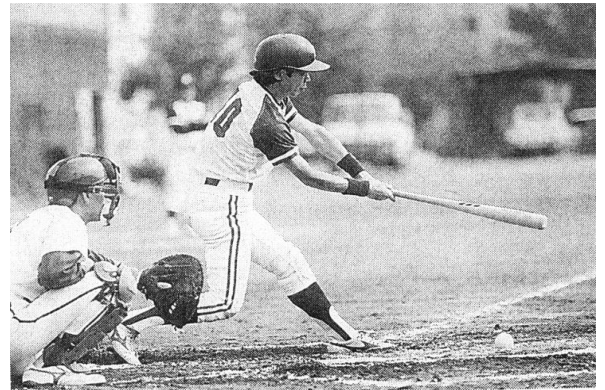
中興化成工業	003 200 0	5	2	0	0	0	1	4	0
小長井クラブ	000 120 0	3	1	1	1	0	2	7	0

【三】小佐々、有田
【二】森、安永

3回表中興化成工業一死二塁、小佐々が遊撃頭上を大きく越える左前適時を放つ

【評】中興化成工業は5年ぶり10回目の出場。3回目出場の第28回(S. 53年)と、前回(H. 3年)に準優勝している松浦地区の強豪。その中興が三回にやや制球が定まらない小長井・久保に4安打を集中して3点を先制。四回にも小佐々が左越え2点三塁打を放ち5-0と大量リードを奪った。

小長井クラブは2年ぶり5回目で平成元年のベスト4が最高位。四回に1点を返すと、五回には有田、安永の連続適時打で2点を追加して2点差までに迫ったが後続を断られた。



【中興】打安点

⑧小佐々	4	3	3
②北川	4	1	0
③田代	4	0	0
⑦久保	3	0	0
⑥佐竹	3	1	1
⑨森	3	1	0
9本	0	0	0
④沢田	3	0	0
⑤長島	3	2	0
①岩本	3	0	0
			30 8 4

【小長井】打安点

⑧鶴田	4	1	0
⑥岡村	3	1	0
⑦有田	4	1	1
③安永	4	2	1
②内村	3	1	1
⑨水口	3	1	0
⑤小松	2	0	0
①久保	3	2	0
④大木	3	0	0
			29 9 3



大会第2日は神戸島仮設野球場で準々決勝4試合を行った。連覇を狙うソニー長崎は7-0で東海クラブに五回コールド勝ち。波佐見野球倶楽部は12安打の猛攻で舛田グループを10-6

で突き放した。第3試合は富江クラブが三回以降、毎回得点し8-5で諫早市役所に競り勝ち。三菱重工長崎は堅い守りの野球で中興化成工業を3-1で下した。

ソニー長崎 東海クラブに大勝

【準々決勝】(第1試合) 振球犠盗失残併 1時間24分

ソニー長崎	040 12	7	2	6	1	6	0	5	0
東海クラブ	000 00	0	6	1	0	0	5	3	0

(5回コールド)
【二】戸嶋、塩津

【ソニー】打安点

⑤川下	3	1	1
④川田	1	1	0
⑧増本	3	0	0
③天野	3	0	0
⑦種村	1	0	0
②戸嶋	2	1	0
⑥1水本	2	0	1
①早田	2	0	1
H9西川	1	1	1
⑨8吉崎	2	1	1
			20 5 5

【評】敵失に付け込み得点を重ねたソニー長崎が7-0で東海クラブに五回コールド勝ちした。ソニーは二回一死二塁から相手内野陣の守備の乱れに付け込んで4点を先取。四回にも敵失で1点を追加。さらに五回には代打西川のタームリーなどで2点を奪った。

大量リードにソニー長崎の先発早田は落ち着いた投球。四回を投げて被安打2。五回裏は水本がマウンドを引き継ぎ、三者連続三振で締めた。2年前の第44回大会では田河東海で初出場し、今季からチーム名を改称した東海クラブは、4連続失策を出した二回表の守りが致命的だった。

【東海】打安点

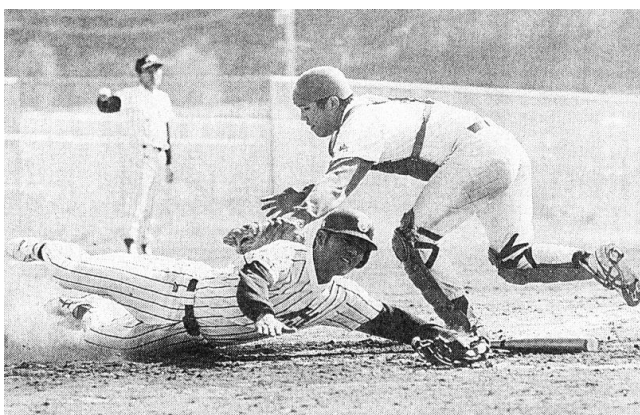
⑧高谷	2	0	0
⑥16橋口	2	1	0
⑤65竹尾	2	0	0
④塩津	2	1	0
③中山	1	0	0
1山本	1	0	0
①53樋口	2	0	0
⑦松下	2	0	0
②石橋正	1	0	0
⑨山川	1	0	0
9石橋重	1	0	0
			17 2 0

波佐見、打撃戦制す

【準々決勝】(第2試合) 2時間7分 振球犠盗失残併

波佐見野球倶楽部	103 204 0	10	2	5	1	5	5	6	0
舛田グループ	023 100 0	6	3	2	1	4	3	5	1

【本】山下 【三】舛田 【二】今井、福田、山下、立石宏



【評】打ち合いは、波佐見野球倶楽部が後半の集中打で舛田グループを突き放した。

6-6で迎えた六回表の波佐見は一死二三塁から松本が右前に2点タイムリー打。牽制死の二死後に馬場が歩き、山下の左飛がタイムリーエラー。さらに前川が右前にはじき返して三進していた山下を還し大量4点を奪った。

序盤はリードされているながらも跳ね返す粘りがあった舛田グループだったが、五回以降は攻撃が単調になってしまい、2年連続三度目の選手権も、準々決勝戦で消えてベスト4進出は、次に持ち越した。

【波佐見】打安点

⑥吉村	3	1	0
④福田勝	4	2	1
⑧松本	4	2	3
①馬場	3	2	0
⑤山下	3	2	4
⑦前川	4	1	1
R田島	0	0	0
3田中	0	0	0
⑨7岩永	4	0	0
②橋口	4	1	0
③9今井	2	1	0
			31 12 9

【舛田】打安点

⑧和田	4	0	0
⑥浜崎秀	3	0	1
④立石拓	3	1	0
⑤立石	4	2	2
③井内	4	0	0
⑨7舛田	2	1	0
①蔭山	2	0	0
1浜崎周	1	0	0
②青崎	3	2	0
⑦9坪井	3	1	1
			29 7 4

4回表、波佐見無死一三塁。犠牲バント処理に、もたつく野手のスキを突いて、二走の福田雅が三塁を回ってホームを狙うがタッチアウト。捕手=青崎

富江こっこつ加点 諫早市役所守備乱れる

【準々決勝】(第3試合)

振球犠盗失残併

2時間4分

富江クラブ	101 212 1	8	3	7	1	5	2	9	0
諫早市役所	001 031 0	5	6	2	1	2	7	5	1

【三】石山雄
【二】梅林

【富江】打安点

⑧石山雄	4	4	0
④福山博	4	0	0
⑦石山末	3	0	1
②三川博	3	0	0
⑨稲田	3	2	1
⑥川口	4	0	1
③尾崎	3	0	0
⑤樽角	3	2	0
①松崎	3	0	0
	30	8	3

【評】点の取り合いとなったが、試合の主導権を手放さなかった富江クラブが第19回大会(昭和44年)初出場以来9回目で初のベスト4に進出した。なにしろ富江クラブに得点がなかったのは二回の攻撃だけ。1、2点ずつだったが得点を積み重ねた。諫早市役所も五回に深川の安打と敵失で好機をつかみ、馬場、前田のタイムリーなどで3点を返して1点差としたが守備が乱れて富江の攻撃にストップをかけられなかった。諫早が記録したエラーは7個で、いずれも失点に結びついたもので前日の諫早市役所とは別のチームの感があった。諫早地区が北高地区と分離したのが第29回大会(S. 54年)から。長崎無線局が4年連続出場し、1年おいて3年連続。62年から諫早ク、千住ク、ソニーと入れ替わり、4年連続5回目のソニーが前年に優勝して諫早から初の2チームが参加した諫早市役所の健闘ぶりだった。

【諫早】打安点

⑧5馬場	2	1	1
⑨8樋口	3	0	0
H松下	1	0	0
①49大谷	3	0	1
④1前田	4	2	1
⑤94石田	3	0	0
②梅林	3	1	0
R2野口	0	0	0
③永田	2	0	0
3執田	1	0	0
⑥深川	3	2	1
⑦加島	3	1	0
	28	7	4

三菱重工貫禄勝ち 中興化成 岩本の好投報われず

【準々決勝】(第4試合)

振球犠盗失残併

1時間37分

三菱重工長崎	101 010 0	3	5	3	0	5	0	6	0
中興化成工業	100 000 0	1	10	1	0	0	2	4	0

【三】江添、北川
【二】鈴木2、榎本

【三菱】打安点

⑥宮本	4	2	0
⑨榎田	3	0	0
⑧榎本	3	1	1
⑦江添	2	1	1
③山崎	2	0	0
H3向井	1	0	0
④本多	3	0	0
②鈴木	3	2	0
⑤碓越	1	0	0
H江村	1	0	0
5中村	1	0	0
①小森	2	0	0
1池野	1	0	0
	27	6	2

【評】初回に仲良く1点ずつ挙げてスタートしたが、三菱重工長崎は三回と五回に、いずれも四球二盗の走者を置いて江添と榎本が長打して各1点を挙げて勝負を決めた。江添の三塁打は左中間を破る文句のないものだったが、五回の榎本の二塁打は平凡な右飛を野手が見失ったもので、変化球で好投していた48歳の超ベテラン、左腕の岩本には気の毒な守備。もっともこの右翼手は次の回に超ファインプレーを演じたが…。三菱重工の小森は立ち上がりコースが甘く、中興打線に3長短打を許したが、二回以降は立ち直った。中興化成工業が昭和53年(第28回大会)に準優勝した時の立役者は左腕の岩本。二試合目で重工と対戦し3安打1失点に抑えているが、18年前のこと。二度目の準優勝(平成3年=第41回)時は、久保川が4試合に登板している。

【中興】打安点

⑧小佐々	3	0	0
②北川	3	1	0
③石井	3	0	0
⑦久保川	3	2	1
⑤佐竹	3	1	0
⑨森	1	0	0
9関本	0	0	0
H田代	1	0	0
④沢田	3	0	0
⑤長島	2	0	0
H富田	1	0	0
①岩本	2	0	0
	25	4	1



最終日の準決勝第1試合目は、前年度優勝で第39回(H.元年)に初出場し6度目の出場、前日までに選手権8勝4敗のソニー長崎と、初出場で2試合を勝ち上がってきた波佐見野球倶楽部は3-0でソニーが勝利。第2試合目は、今大会が22回目の出場で12年前(S. 59年=第34回)大会以来10回目の優勝を目指す

三菱重工長崎に、前年の県民体育大会決勝で三菱重工長崎を倒し(3-0)、選手権でも初の決勝進出を狙う富江クラブが挑んだが、1-0で三菱重工が逃げ切った。前年決勝戦の再現となった決勝戦は、三菱重工の小森がソニー打線を完封した。
(平成8年10月21日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

好機生かしたソニー 波佐見倶楽部、痛いミス

【準決勝】

1時間25分

振球犠盗失残併

ソニー長崎	003 000 0	3	4	1	2	0	0	1	0
波佐見野球倶楽部	000 000 0	0	7	2	1	0	3	2	0

【ソニー】打安点

⑤川下	2	0	0
④川田	3	1	2
⑧1増本	3	0	0
③天野	3	0	0
⑦種村	3	0	0
②戸嶋	3	1	0
⑥木本	2	0	0
H6吉山	1	0	0
①本田	0	0	0
H西川	1	0	0
8道上	0	0	0
⑨吉崎	1	0	0
	22	2	2

【評】ソニー長崎が少ない好機を生かして決勝進出を決めた。ソニーは三回に先頭の本田が四球。続く吉崎と川下は内野陣の守備の乱れで無死満塁となった。ここで川田に右前適時打が出て二者生還。川田が一塁をオーバーランして一二塁間に挟まれている間に、一走の川下も三塁を回ってホームインし、一気に3点を奪った。波佐見野球倶楽部は四回からリリースした白木が七回までパーフェクトピッチング。先発の馬場も一、二回をしっかりと抑えていただけに、ミスから与えた三回の失点が惜まれる。東彼杵地区代表が準決勝に進出したのは、第29回(S. 54年)に大村・東彼地区が分離して18回大会を数えるが、6年前(H. 2年=第40回)に鴻の巣クラブが、壱岐、福江を下して以来2度目のこと。準決勝で大村市役所に敗戦。

【波佐見】打安点

⑦今井	3	0	0
⑥福田	3	1	0
⑤山下	3	0	0
①3馬場	2	1	0
⑧松本	2	0	0
H前川	0	0	0
⑨岩永	2	1	0
②福田	2	0	0
④馬場	0	0	0
1白木	1	0	0
③田中	1	0	0
④猪牧	1	0	0
	20	3	0

三菱重工逃げ切る 富江ク、あと一歩及ばず

【準決勝】	1時間16分	振球犠盗失残併
三菱重工長崎	100 000 0	1 5 6 3 1 0 5 0
富江クラブ	000 000 0	0 8 0 0 0 2 2 0

【三 菱】	打 安 点
⑥ 宮 本	2 1 0
⑨ 梶 本	2 0 0
⑧ 梶 本	2 0 0
⑦ 江 中	1 0 1
⑤ 向 井	2 0 0
③ 松 永	0 0 0
R 3 山 崎	0 0 0
② 布 村	2 1 0
① 牧 瀬	2 0 0
④ 本 多	3 0 0
	18 2 1

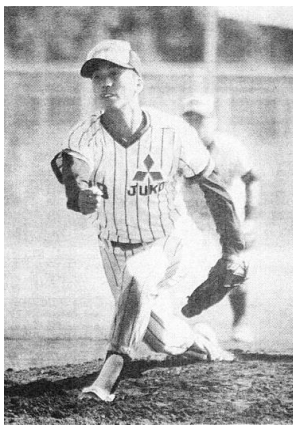
【富 江】	打 安 点
⑧ 石 山 雄	3 0 0
④ 福 山 博	3 0 0
⑦ 石 山 博	3 1 0
② 川 末	3 0 0
⑨ 稲 田	3 0 0
⑥ 川 口	2 1 0
③ 松 角	2 0 0
⑤ 樽 田	2 0 0
① 松 崎	2 1 0
	23 3 0

【評】三菱重工長崎の先発・牧瀬が8奪三振、与四死球ゼロの好投で完封し一回の1点を守り抜いた。初回の三菱重工は先頭の宮本が歩き、続く梶田の送りバントが敵失を誘い一二塁。梶本がバントを決めた二三塁に江添が中犠飛。ノーヒットで1点を先取した。牧瀬はコーナーを丁寧に投げ分け、相手に二塁を踏ませない好投だった。

富江の先発・松崎も二回以降を無失点に抑える好投で投手を盛り立てたが初回の1点が最後まで響いた。

三菱重工長崎12年ぶり10度目のV

エース小森
ソニー長崎を完封



被安打2、奪三振5で完封勝ちした三菱重工の小森

【決勝】 1時間36分 振球犠盗失残併

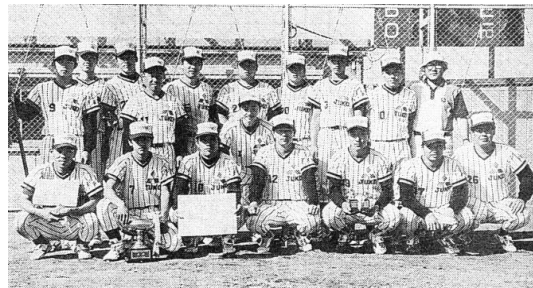
ソニー長崎	000 000 000	0 5 0 1 0 2 2 0
三菱重工長崎	001 000 00X	1 4 3 3 1 0 6 0

【評】三菱重工が三回に敵失で挙げた最小点を小森の好投で守り切って12年ぶりに県チャンピオンの座に就いた。

三回の三菱は一死後に宮本が四球。中村が送って、投手暴投で三進。梶本は当たりそこねの三塁寄りの投ゴロだったが、やや慌てた阿部の一塁送球が逸れて宮本が生還した。これが決勝点となったのだからソニー長崎にとっては痛恨のエラーといえる。

この日の三菱小森にとってはこの1点だけで十分。ストレート、カーブともにコントロールよく、初回到安打の増本をバントで送られた二死二塁が唯一のピンチ。あとは五回に1安打を許しただけ。無四球でソニー打線を完封した。

ソニーは阿部から本田、増本と継いで三菱の追加点を阻んだが攻めが淡白。早打ちせず、じっくり攻めるべきではなかったか。



【表彰選手】

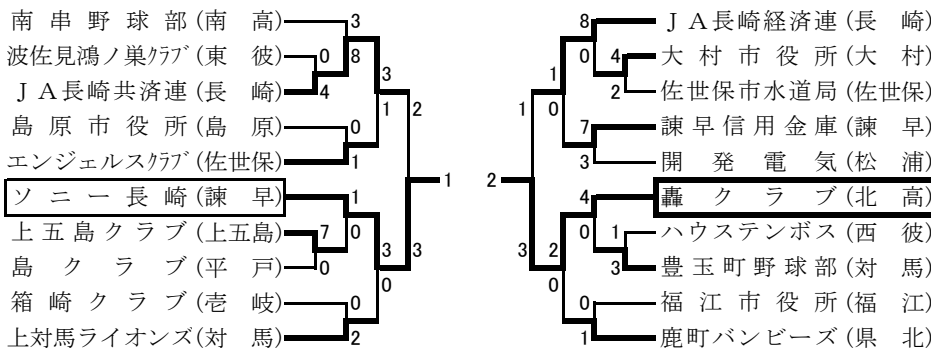
- 最優秀殊勲選手賞 小森 幸徳 (三菱)
 - 最優秀投手賞 小森 幸徳 (三菱)
 - 敢闘賞 本田智佳志 (ソニー)
 - 首位打者賞 川田 隆史 (ソニー)
- (4試合10打数5安打)

【ソニー】	打 安 点
⑤ 川 下	4 0 0
④ 川 田	4 1 0
⑧1 増 本	2 0 0
③ 天 野	3 0 0
⑦8 種 村	3 0 0
② 戸 嶋	3 0 0
⑥ 水 本	3 1 0
① 阿 部	1 0 0
1 本 田	1 0 0
H7 野 口	1 0 0
⑨ 吉 崎	1 0 0
H9 西 川	2 0 0
	28 2 0

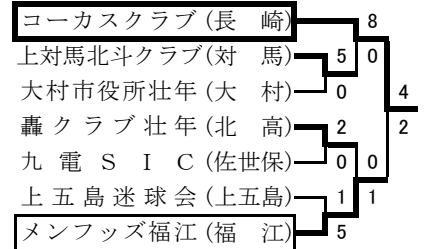
【三 菱】	打 安 点
⑥ 宮 本	3 0 0
⑤ 中 村	3 0 0
⑧ 梶 本	3 1 0
⑦ 江 添	4 0 0
③ 向 井	2 0 0
② 布 村	2 0 0
① 小 森	3 1 0
④ 本 多	2 0 0
⑨ 梶 田	3 1 0
	25 3 0

平成8年に開催されたその他の競技会の戦績① (一般のみ)

第51回国体(成年2)予選 5.11~佐世保



第51回国体(壮年)予選 5.11~長崎



九州ミニ国体 8.16~沖縄

壮年のコーカスクラブが代表決定戦で大分に惜敗。1部の三菱重工長崎と、2部の轟クラブは初戦で敗退した。

国体成年1部予選(4.6~佐世保)は、親和銀行と前年度天皇賜杯出場の三菱重工長崎が3戦2勝先勝方式で行ない、2勝1敗で三菱重工長崎が九州国体への代表となった。

平成8年に開催されたその他の競技会の戦績② (一般のみ)

天皇賜杯第51回県予選 8.3～佐世保

生月体協(県北)	0
トンネルズ(島原)	0 4
J A長崎共済連(長崎)	8
開発電気(松浦)	0
親和銀行(佐世保)	6
三井楽クラブ(福江)	0
千住スポーツ店(諫早)	1 2
轟クラブ(北高)	2
上対馬クラブ(対馬)	5
舩田グループ(上五島)	6
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	5
中村クラブ(大村)	2 0
番クラブ(佐世保)	0
三菱重工長崎(長崎)	7
平戸クラブ(平戸)	2
ソニー長崎(諫早)	7
松島炭鉱池島鉱(西彼)	0
東海クラブ(老岐)	棄
国見野球クラブ(南高)	棄
上対馬メッツ(対馬)	棄

7/6～の予定が雨天延期により棄権3チーム

第18回西日本1部県予選 4.6～波佐見

御厨バイスターズ(松浦)	0
J A長崎信連(長崎)	5 8
生月体協(県北)	1
小長井クラブ(北高)	3
大村市役所(大村)	4 0
島原市役所(島原)	0 7
アイケン医院マッスルズ(佐世保)	4
上五島クラブ(上五島)	0
彼杵スラッガーズ(東彼)	3 2
平戸クラブ(平戸)	2
諫早信用金庫(諫早)	0
ハウステンボス(西彼)	1 3
福江市役所(福江)	9 1
吾妻町体協野球部(南高)	4

西日本(1部)大会 5.10～・香川県

- 【一】 2-0 山本サックスクラブ(徳島)
- 【二】 15-0 明治維新(高知)
- 【準々】 5-0 善通寺ファイヤーズ(香川)
- 【準】 1-4 ユーユーパン(福岡)

第18回西日本2部県予選 4.13～島原

シゲマツクラブ(長崎)	7
松石電設(諫早)	2 3
安中クラブ(島原)	3 1
T E A M橋口(大村)	4
西海クラブ(佐世保)	10
おじんクラブ(平戸)	3 11
小佐々クラブ(県北)	9 9
県職クラブ(上五島)	2
飯盛クラブ(北高)	7
有明町役場(南高)	1 5
ラグーンズ(東彼)	1 4
西海棒球队(西彼)	2
松浦野球部(松浦)	6 1
九州電力福江(福江)	0 3
東海クラブ(老岐)	2

西日本(2部)大会 5.22～・大阪府

- 【一】 6-7 ノメリコンズ(滋賀)

天皇賜杯第51回全日本 9.20～:岐阜県

- 【一】 9-1 JA長野厚生連病院(長野)
- 【二】 4-5 J T高崎(群馬)

高松宮賜杯第40回1部 6.8～福江

福江球友会(福江)	7
平戸クラブ(平戸)	0 1
大村市役所(大村)	2 0
小長井クラブ(北高)	4 5
鹿町バンビーズ(県北)	8 0
愛野町体協野球部(南高)	3 2
西九州三菱自販(長崎)	2 0
若松クラブ(上五島)	1
波佐見野球倶楽部(東彼)	1
島原市役所(島原)	0 1
千住スポーツ店(諫早)	0 2
ハウステンボス(西彼)	2 2
番クラブ(佐世保)	0 1
上対馬ライオンズ(対馬)	1 2
ホワイトアパッチ(松浦)	0

九州ブロック(大分)で敗退

高松宮賜杯第40回2部 6.8～松浦

ビクトリアス(佐世保)	3
オール江迎(県北)	4 0
飯盛クラブ(北高)	6 5
T E A M橋口(大村)	7 1
有明町クラブ(南高)	1 5
上対馬クラブ(対馬)	2 1
勝本北星(老岐)	0 2
西海棒球队(西彼)	17 5
川棚東芝セマックス(東彼)	0 3
松石電設(諫早)	2 2
中央ペローズ(島原)	2 3
開発電気(松浦)	10 2
九州電力長崎支店(長崎)	10
崎山クラブ(福江)	0

九州ブロック(宮崎)で敗退

第48回県民体育大会 11.9～佐世保

(佐世保)西海クラブ	1
(島原)島原市役所	0 6
(老岐)箱崎クラブ	1 1
(松浦)開発電気(株)	5 7
(西彼)大瀬戸クラブ	0 0
(南高)愛野体協野球部	7 0
(福江)福江市役所	6 1
(対馬)上県佐護リバース	0 2
(南松)富江クラブ	5 7
(北松)生月町	1 6
(東彼)彼杵スラッガーズ	0 5
(長崎)三菱重工長崎	4 1
(大村)T E A M橋口	4 0
(北高)小長井クラブ	1 4
(平戸)島クラブ	4 2
(諫早)諫早信用金庫	2

第19回九州選手権県予選 4.20～長崎

ソニー長崎(諫早)	3
J A長崎経済連(長崎)	5 3
三菱重工長崎(長崎)	7 2
轟クラブ(北高)	5 7
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	0 9
西部ガス(長崎)	6 1
親和銀行(佐世保)	8 2
J A長崎共済連(長崎)	3

親和銀行は九州大会で準優勝。九州2枠で出場した11月の秩父宮妃賜杯大会で、前年に続きベスト4。準々決勝で国体2連覇の大阪市信用金庫を破り、準決勝で三洋電機津本に敗退。

第4回県壮年大会 10.26～飯盛

大村市役所壮年(大村)	1
佐世保西海クラブ(佐世保)	3 3
おじんクラブ(平戸)	0 2
長大クラブ(長崎)	4 6
轟壮年クラブ(北高)	1 3
豊玉壮年クラブ(対馬)	0 7
メンフッズ福江(福江)	4 6
オール東彼杵(東彼)	1